

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成27年5月20日)

- 1 平成26年度県内鉄道高速化調査について 【交通政策課】・・・1ページ
- 2 平成26年度県内空港国内便の利用状況について 【交通政策課】・・・4ページ
- 3 公共交通機関のゴールデンウィークの利用状況について 交通政策課】・・・5ページ
- 4 ファブラボとっとりmid&westキックオフ開催結果について
【教育・学術振興課】・・・6ページ
- 5 公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について
【教育・学術振興課】・・・8ページ
- 6 「輝く女性活躍支援チーム」の設置について 【男女共同参画推進課】・・・9ページ
- 7 平成27年度第1回鳥取県日野地区連携・共同協議会について
【日野振興センター】・・・10ページ

地 域 振 興 部

平成26年度県内鉄道高速化調査について

平成27年5月20日

交通政策課

平成26年10月からフリーゲージトレイン方式による「伯備線ルート」及び「智頭・因美線ルート」の高速化調査に着手しているところですが、H26年度に実施した線路状況や線形改良の検討等の基礎的な調査の結果について概要を報告します。

1 調査概要

本調査は、線路状況や新幹線と在来線のアプローチ部の検討、線形改良電化関係の検討、到達時間の検討などを行っています。なお、伯備線ルートは三県(鳥取県、島根県、岡山県)、智頭・因美線ルートは鳥取県で行っています。

○調査の内容

【H 26 年度調査】

- ①線路状況の把握 ②新幹線・在来線アプローチ部の検討 ③線形改良の検討
- ④踏切の調査

【H 27 年度調査】

- ①留置、検修機能 ②電化関係の調査検討 ③到達時間の算出
- ④工事数量・概算経費の算定

2 平成26年度調査の結果概要

(1) 伯備線ルート(岡山-倉敷-米子-出雲市間)

区 間	岡山-米子-出雲市	課題に対する対応策
キロ程(km)	222km	
曲線半径 400m未満 (要改良箇所数)	147箇所	・特急並の速度が出せるよう、可能な限り曲線半径を400m以上に改良する。 ・軌道新設を行う場合は、可能な限り直線に近い形とする。
対象総延長(km)	44km	
道床厚250mm未満 (要改良箇所数)	85箇所	・道床厚(マクラギと路盤の厚さ)を250mm以上に改良し、レールの長さを溶接等により200m以上にするロングレール化やPCマクラギ(プレスト・コンクリート素材)への変更を適用可能な全区間で行う。
対象総延長(km)	182km	
橋梁改良 (無道床橋梁区間) (要改良箇所数)	76箇所	・無道床橋梁箇所(マクラギを主桁に直結し、床板や道床を設けない橋梁)について、マクラギ強化とガードレールによる軌道改良を行う。 ・開渠のような短いものはコンクリート橋に改良する。
トンネル (要改良箇所数)	0箇所	・現在のトンネルは、全箇所架線に必要な構造となっているが、線形の改良に伴い必要となるトンネルの新設を行う。
踏切 (要改良箇所数)	209箇所	・必要な箇所を総研式踏切(RCやPC製の踏切舗装板を用いた総研形舗装板式踏切舗装構造)へ変更する。
電化・非電化	全線電化	・全線電化済み(軌道を付け替える箇所の電化を行う)

(2) 智頭・因美線ルート(姫路-上郡-鳥取-米子間、米子-出雲市間)

区 間	姫路-鳥取-米子	米子-出雲市	課題に対する対応策
キロ程(km)	216km	62km	
曲線半径 400m未満 (要改良箇所数)	29箇所	10箇所	・特急並の速度が出せるよう、可能な限り曲線半径を400m以上に改良する。 ・軌道新設を行う場合は、可能な限り直線に近い形とする。
対象総延長(km)	8km	3km	
道床厚250mm未満 (要改良箇所数)	67箇所	24箇所	・道床厚(マクラギと路盤の厚さ)を250mm以上に改良し、レールの長さを溶接等により200m以上にするロングレール化やPCマクラギ(プレスト・コンクリート素材)への変更を適用可能な全区間で行う。
対象総延長(km)	142km	85km	
橋梁改良 (無道床橋梁区間) (要改良箇所数)	43箇所	12箇所	・無道床橋梁箇所(マクラギを主桁に直結し、床板や道床を設けない橋梁)について、マクラギ強化とガードレールによる軌道改良を行う。 ・開渠のような短いものはコンクリート橋に改良する。
トンネル (要改良箇所数)	18箇所	0箇所	・架線に必要な構造に改良する。(うち、智頭急行線は電化可能な構造) ・線形改良に伴い必要となるトンネルの新設を行う。
踏切 (要改良箇所数)	155箇所	62箇所	・必要な箇所を総研式踏切(RCやPC製の踏切舗装板を用いた総研形舗装板式踏切舗装構造)へ変更する。
電化・非電化	非電化 (姫路-上郡、伯耆大山-米子間) は電化	全線電化	・全線電化を行う。(姫路-上郡間、伯耆大山-米子間のみ電化済み)

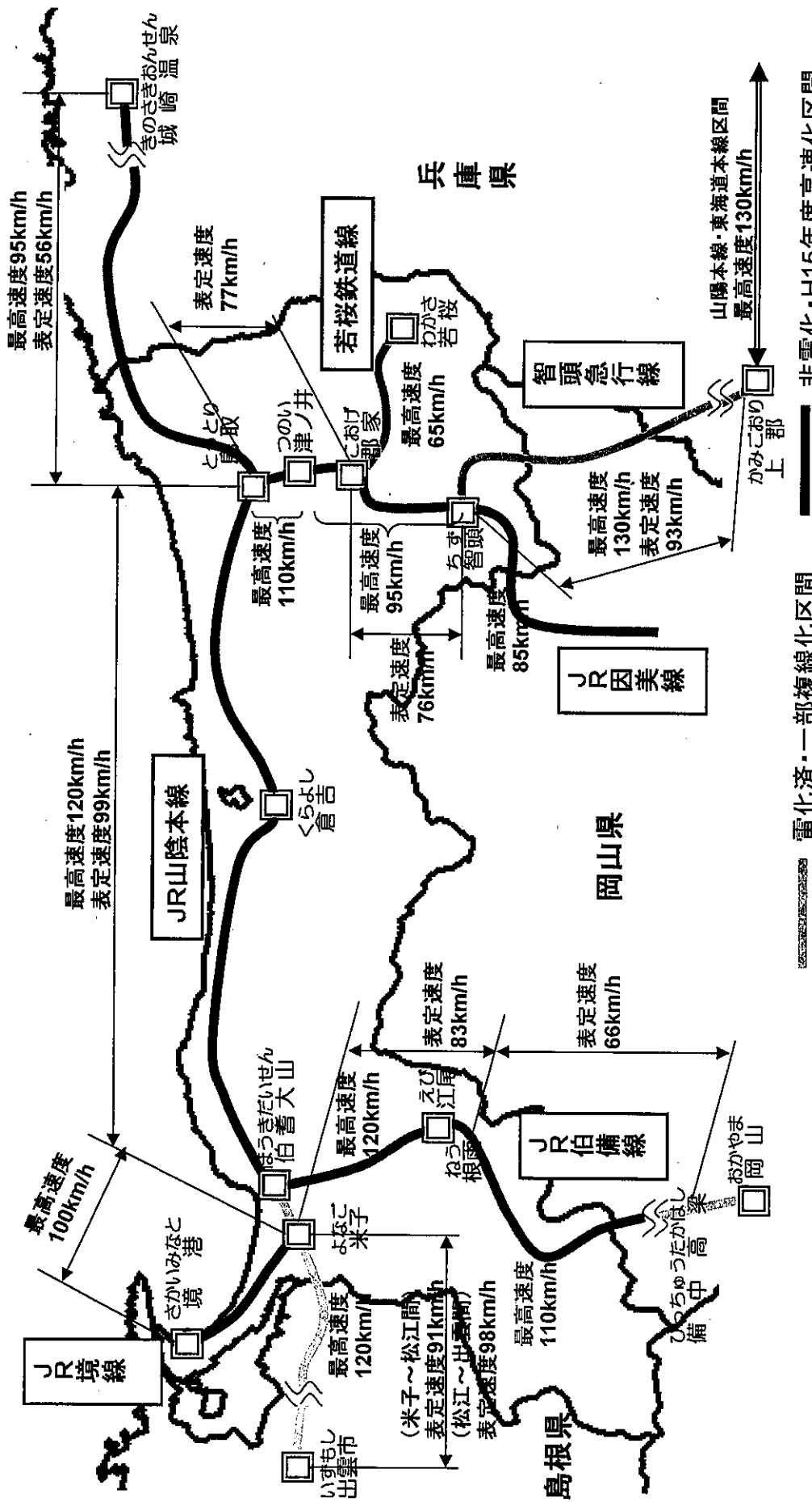
3 今後の検討

H26年度に実施した基礎的な調査結果を踏まえ、以下の調査を実施する。

- 留置、検修機能(車両留置等の確保を検討)
- 電化関係の調査検討
- 到達時間の算出(運転図の作成、ダイヤ設定等の調査)
- 工事数量・概算経費の算定

鳥取県内鉄道路線図

(H27.5現在)



- 電化済・一部複線化区間 (Electrified / Partly double-track section)
- 電化区間 (Electrified section)
- 非電化・H15年度高速化区間 (Non-electrified / H15 high-speed section)
- 非電化・未高速化区間 (Non-electrified / Not high-speed section)

平成 26 年度県内空港国内便の利用状況について

平成 27 年 5 月 20 日
交通政策課

鳥取砂丘コナン空港及び米子鬼太郎空港の平成 26 年度利用実績がまとまり、ANA 鳥取－東京便は 5 便化による利便性向上効果もあり、過去最高となる利用者数 34 万人台を達成しました。

また、米子鬼太郎空港は、ANA 米子－東京便が過去最高となった平成 25 年度に次ぎ 2 番目となる約 49 万 6 千人を記録し、スカイマーク便も通年で約 32 万人の搭乗を記録したことから、全体では初めて利用者数 80 万人台を達成しました。

記

1 県内航空便の利用状況

(1) 集計期間 平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

(2) 搭乗者数及び搭乗率

①鳥取砂丘コナン空港

・ANA 東京便 (5 便/日) 搭乗者数 342,926 人 (搭乗率 57.9%)

※就航以来最高の利用者数 34 万人台達成 (これまでの最高利用者数 平成 18 年度 334,298 人)

②米子鬼太郎空港 搭乗者数 816,336 人 (搭乗率 56.9%)

※就航以来最高の利用者数 80 万人台達成 (これまでの最高利用者数 平成 25 年度 607,727 人)

・ANA 東京便 (6 便/日) 搭乗者数 496,255 人 (搭乗率 67.2%)

※平成 26 年 6～9 月は 5 便での運航 (これまでの最高利用者数 平成 25 年度 543,947 人)

・スカイマーク便 搭乗者数 320,081 人 (搭乗率 45.9%)

(神戸便 100,790 人 (搭乗率 42.8%) ※茨城 (神戸経由 1 便/日を含む)、那覇便 59,981 人 (搭乗率 47.0%)、成田便 44,155 人 (搭乗率 34.0%)、羽田便 83,893 人 (搭乗率 64.3%)、新千歳便 31,262 人 (42.6%))

2 利用者数増加の主な要因

・鳥取砂丘コナン空港 ANA 便の 1 日 5 便化、米子鬼太郎空港 ANA 便の 1 日 6 便化

・米子鬼太郎空港スカイマークの路線拡大及び通年運航

平成 26 年 4 月 1 日から羽田 2 便/日、新千歳 1 便/日、那覇 1 便/日が就航

※成田便、羽田便、新千歳便は 2014 年冬ダイヤより運休。神戸便は本年 2 月から 1 便運航。

・鳥取砂丘コナン空港愛称化等に伴うメディア広報、露出対策の強化による山陰旅行需要拡大

・うっとり鳥取キャンペーン「鳥取美人物語」をはじめとする首都圏、各就航地向け情報発信、利用促進対策等の強化

公共交通機関のゴールデンウィークの利用状況について

平成 27 年 5 月 20 日
交通政策課

公共交通機関のGWの利用状況は以下のとおりでした。

1 利用者数及び利用率

(1) 全日空 (4/25～5/6)

ANA 鳥取－東京便 (5 便/日)

搭乗者数	13,167 人 (対前年 114.6%)
搭乗率	66.2% (対前年+7.1ポイント)

ANA 米子－東京便 (6 便/日)

搭乗者数	19,455 人 (対前年 125.5%)
搭乗率	74.3% (対前年+20.8ポイント)

(2) スカイマーク (4/28～5/6) ※公表は全路線合計のみ

米子発着全路線計

搭乗者数	3,772 人 (対前年 81.6%)
搭乗率	59.2% (対前年+10.8ポイント)

※搭乗者数の対前年減は米子-神戸線の便数減(2便→1便)による提供座席数の減が影響したもの

(3) JR 西日本 (利用者数の前年比) (4/24～5/6)

全体利用総数 112%

- ・やくも号 103%
- ・サンライズ出雲号 101%
- ・スーパーはくと号 108%
- ・スーパーいなば号 118%
- ・スーパーおき号 699%
- ・はまかぜ号 (山陰本線: 岩美～鳥取) 110%

(4) 日交バス (高速) (利用者数の前年比)

- ・東京便 100%、大阪便 110%、広島便 121%、福岡便 105%、京都便 96%

2 利用状況の分析

- ・今年のGWは、後半が5連休となり長期休暇が取りやすかったため、全体的に各交通機関の利用者数が多かった。
- ・ANA 米子－東京便は、スカイマークとの競合が無くなったことにより利用者数が大幅に伸びたと思われる。

ファブラボとっとり mid&west キックオフ開催結果について

平成27年5月20日
教育・学術振興課

3D プリンタなどのデジタル工作機から、糸鋸や鉋などアナログな道具までの多様な工作器具を備えた、自由に何でも作ることができる環境の中で、若者の創造力を育む実験的な市民工房「ファブラボとっとり」(※)(本拠地:鳥取市文化センター)を、倉吉・米子両市にも開設し、5/16・17 にキックオフを行いました。

※ファブラボ(FabLab)の「Fab」は「Fabrication(ものづくり)」と「Fabulous(素晴らしい)」という2つの意味が込められた造語で、「Lab」は「Laboratory(実験室)」の略。
※2014年9月現在世界50か国600か所以上に増加中。国内12か所中鳥取は8番目、中四国初。

1 ファブラボと通りの概要

拠点	新設)ファブラボとっとり mid	新設)ファブラボとっとり west	既設)ファブラボとっとり
所在	倉吉市昭和町 BY ヨシダ店内	米子市新開ぶんぶん堂米子店内	鳥取市文化センター内
開設	H27.5.16(土)	H27.5.17(日)	H26.5.17(土)
職員	Fab マスター(技術統括)1名	Fab マスター(技術統括)1名	Fab マスター(技術統括)1名 Fab スタッフ(事務運営)1名
運営	ものづくり協力会議(環大・短大・高専等産学官で構成、事務局鳥大)が県受託で実施		

2 キックオフの概要 上記新設拠点で各開業日に実施

5/16 倉吉	ファブラボ工作体験 13:00~14:30 (参加者 35人) ファブラボとっとり mid 見学ツアー 14:00~14:50 (参加者 20人) オープニング・事業説明 15:00~15:35 (参加者 40人)
約 80 人	◇事業紹介「アナログ×デジタルの融合ーファブラボへの展開ー」 ものづくり協力会議会長・鳥取大学地域学部教授 土井康作氏 トークセッション「持続・発展可能なファブラボ運営実現に向けて」15:40~17:40 (参加者 40人) ◇ファブラボの事例紹介 ファブラボ渋谷:梅澤陽明氏、ファブラボ太宰府:柳瀬隆志氏、ファブラボとっとり:玉川文夫氏 ◇ファブラボとっとり mid,west 紹介 mid:BY ヨシダ・吉田尚史社長、west:ぶんぶん堂米子店・木村卓哉店長 交流会 18:30~20:30 (参加者 20人)
5/17 米子	ファブラボとっとり west 見学ツアー 10:00~10:45 (参加者 36人) オープニング・事業説明・ファブラボとっとり west 紹介 11:00~11:50 (参加者 48人)
約 70 人	◇事業紹介:ものづくり協力会議・土井会長 ◇ファブラボとっとり west×BunBunDo の紹介:榎きさらぎ(ぶんぶん堂)木村正明社長 ファブラボ体験ワークショップ(2部構成) 13:00~16:00 (参加者 15人)

(4)参加者の感想

- ・3Dプリンタを使っていろんなものを作り、将来はものを作る仕事に就きたい。
- ・独自のコマができ嬉しかった。先生からこのコマは世界に一つと言われ、もっと嬉しくなった。
- ・身近に、子どもがものを作る、完成するという体験の場ができたことを嬉しく思う。
- ・子どもも楽しかったと話しているので、気持ちが持続している間に、また来て体験させたい。
- ・芸術分野で活動しているが、デジタル工作機で、新たな作品を作り出せる期待感がある。
- ・このFabLabを通じて、いろいろな人が集い、学び、教え合いながらネットワークを築けたらと思う。

3 今後の展開

ファブラボ3拠点の持続的活動を継続支援し、各地域へのものづくり教育の浸透を図る。

当日の様子

5月16日(土)

○ファブラボ工作体験

13:00~14:30 (参加者 35人)



○ファブラボとっとり mid 見学ツアー

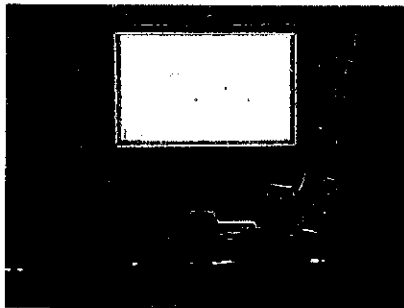
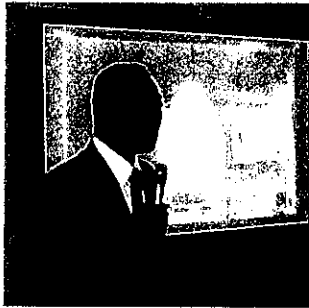
14:00~14:50 (参加者 20人)



○オープニング・事業説明 15:00~15:35(参加者 40人)

◇事業紹介:ものづくり協力会議土井会長

○トークセッション



○交流会
18:30~20:30
(参加者 20人)

◇ファブラボの事例紹介

渋谷:梅澤氏

太宰府:柳瀬氏

とっとり:玉川氏

◇mid,west 紹介

mid:吉田社長

west:木村店長



5月17日(日)

○ファブラボとっとり west 見学ツアー

10:00~10:45(参加者 36人)



○オープニング・事業説明・west 紹介

11:00~11:50(参加者 48人)

◇事業紹介

◇west × BunBunDo の紹介



土井会長



木村社長

○ファブラボ体験ワークショップ 13:00~16:00(参加者 15人)



公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について

平成27年5月20日
教育・学術振興課

1 入試実施状況

- ・公立大学としての認知度が高まり、志願者及び入学定員充足率の目標を達成した。
 <志願者> 年次目標：定員の3.6倍以上 → 実績：5.6倍
 <入学定員充足率> 年次目標：100%達成 → 実績：107.6%
- ・経営学部、環境学部とも志願倍率が5倍を超えた。
- ・経営学部、環境学部とも県内の入学者の割合が増加した。

学 部	環境学部		経営学部		合計	
	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度
募集人員	138名		138名		276名	
志願者数	759名	1,051名	785名	1,178名	1,544名	2,229名
(うち県内)	(41名)	(80名)	(165名)	(153名)	(206名)	(233名)
(県内割合)	(5.4%)	(7.6%)	(21.0%)	(13.0%)	(13.3%)	(10.5%)
志願倍率	5.5倍	7.6倍	5.7倍	8.5倍	5.6倍	8.1倍
入学者数	148名	153名	149名	179名	297名	332名
(うち県内)	(12名)	(9名)	(44名)	(31名)	(56名)	(40名)
(県内割合)	(8.1%)	(5.9%)	(29.5%)	(17.3%)	(18.9%)	(12.0%)

○鳥取環境大学中期計画における志願者及び入学定員充足率の年次的目標

<志願者>

毎年度定員の2倍以上の志願者を確保

中期計画中間年度(平成26年度)までには志願者総数1,000人(3.6倍)以上を達成

中期計画最終年度(平成29年度)までには志願者総数1,380人(5倍)以上を目指します

<入学定員充足率>

毎年度100%達成

2 就職活動状況(4月1日時点)

- ・就職アドバイザーによる企業開拓や学生指導、マッチングなど様々な就職支援策を実施。内定者数及び県内企業内定者数とも、昨年度に比べて増加した。
- ・今年度は公立大学の1期生の就職活動となることから、従来以上に学生支援を行い、全国国公立大学の平均を上回るように努める。

	平成26年度	平成25年度
卒業生	194名	123名
就職希望者	171名	108名
(うち鳥取県内出身者)	(80名)	(67名)
内定者	159名	100名
(うち鳥取県内企業へ内定)	(51名)	(42名)
内定率	93.0%	92.6%
全国国公立大学平均	89.3%(暫定値)	96.7%

○鳥取環境大学中期計画における就職率の年次的目標

H24：全国国公立大学平均値の△3ポイント以内

H25：全国国公立大学平均値の△2ポイント以内

H26：全国国公立大学平均値の△1ポイント以内

H27以降：全国国公立大学平均値以上

「輝く女性活躍支援チーム」の設置について

平成27年5月20日
男女共同参画推進課

「鳥取元気プロジェクト」実現に向けた10のプロジェクトチームの1つとして、「輝く女性活躍支援チーム」を設置し、庁内における推進体制と位置付ける「鳥取県男女共同参画行政推進会議」を開催しました。

- 1 開催日 平成27年5月1日(金)
- 2 委員 副知事(座長)、関係部局長等
- 3 内容
 - 輝く女性活躍支援チームの役割・数値目標を確認
 - 男女共同参画の推進に向けた新たな数値目標の検討
 - 様々な立場の方と意見交換する「男女共同参画キャラバン隊」実施について、関係部局との連携を確認

4 輝く女性活躍支援チームについて

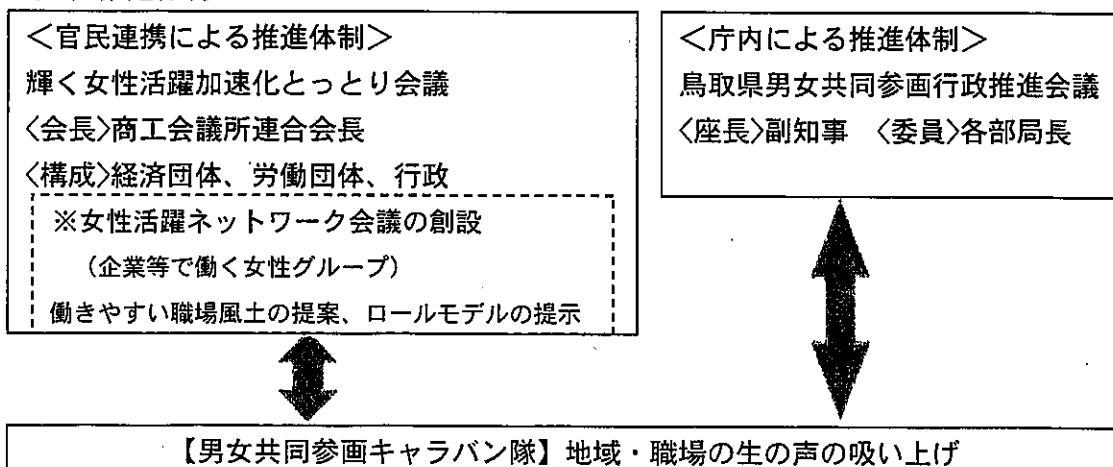
(1) 基本方針(数値目標)

- ① 管理的地位に占める女性割合 25%以上(従業員10人以上の企業)
30%以上(従業員100人以上の企業)
- ② 輝く女性活躍パワーアップ登録企業 200社
- ③ 鳥取県男女共同参画推進認定企業 600社

(2) 取組内容

- ① 男女が働きやすい職場環境整備
- ② 女性の活躍に向けた環境整備
- ③ 地域社会における女性の参画促進

(3) 推進体制



平成27年度第1回鳥取県日野地区連携・共同協議会について

平成27年5月20日
日野振興センター

5月11日に第1回協議会を開催し、平成26年度の事業報告及び決算の承認を行うとともに、連携協約の締結、これに伴う協議会の廃止及び地方創生に向けた連携の促進について協議しましたので、その概要を報告します。

1 議事及び概要

(1) 連携協約の締結について

組織の運営面を重視した現在の「鳥取県日野地区連携・共同協議会」から、これまでの成果を踏まえた共同事務・連携の取組の活性化・拡充を図るため、事務手続きが簡素で機動的な「連携協約」へ移行することとし、県及び3町において、7月の「連携協約」の締結に向けた準備を進める（「鳥取県日野地区連携・共同協議会」は廃止する。）ことを確認した。

※連携協約とは

平成26年5月の地方自治法の改正により、新たに創設された柔軟で機動的な自治体間の連携の仕組み

(2) 地方創生における連携の促進について

今後、各町で進められる地方版総合戦略の検討作業と平行して、連携して取り組むべき施策の範囲の絞り込み、具体的な事業内容を検討することをしていくことを確認した。

(促進される取組例)

日野高校の魅力向上支援、移住定住促進、子育て支援、6次産業化、観光戦略の取組など、連携の取組をスピードアップして検討・実施していく。

(3) その他

- ・平成26年度事業報告及び決算、監査報告の承認
- ・重点項目の取組状況についての報告（道路維持・農業・教育の各分野）

【参考】

・協議会発足からの主な成果

(1) 道路の除雪・維持管理（H23～）

県道の除雪等を町に一部委託し、県道と町道に関わらない面的な実施が可能になった。除雪車の運転手後継者不足の対応として、県と3町とで免許取得の費用助成制度を創設した。

(2) 鳥獣被害対策（H23～）

日野郡鳥獣被害対策協議会を設置し、鳥獣被害対策と後継者不足の対応等活動が活発化した。

(3) 母子発達支援（H22～）

単町では専門家や予算の確保が難しい中、県の人材を活用し集団教室や保護者交流会等活動が定着した。

(4) 障がい者雇用（H22～）

県・3町の庁舎清掃・除草、図面折等の作業を障がい者事業所へ委託し、仕事量の増加につながった。

（作業委託時間 702時間（H22） → 4,319時間（H26））

「鳥取県日野地区連携・共同協議会」の概要

(1) 設置年月日 平成22年7月23日

(2) 根 拠 鳥取県及び日野郡3町が協議により規約を定め、地方自治法に基づき設置する法定協議会

(3) 委 員 日野郡3町長と鳥取県知事（現会長：日野町長）

(4) 主な取組内容（連携事務）障がい者雇用、発達支援、共同発注、消費者行政

（重点項目）道路の維持管理・除雪、農地利用促進・鳥獣被害対策、日野郡の教育のあり方